

河北新報(2026-01-16)



大崎八幡宮の御神火の周りを歩く裸参りの行列と参拝客
=14日午後5時15分ごろ、仙台市青葉区（伊深剛撮影）

天仰ぐ炎 息災祈る 東北各地・どんと祭

正月飾りや古いお札を焼納する小正月の伝統行事「どんと祭」が14日、東北各地で行われた。仙台市青葉区の大崎八幡宮には大勢の参拝者が集まり、正月の間に各家庭を訪れていた神々を送る「御神火」に当たって、1年間の無病息災や家内安全を祈った。

(13面に関連記事)

日没後、高さ約5㍍に積み上げられたしめ縄や松飾りといった正月飾りに火が付けられた。裸参りの行列は左手にちょうどんをともし、右手に持つたかねを鳴らしながら、御神火の周りを歩いた。

太陽光を反射させるガラス細工のサンキャッチャー作家星ゆりさん(44)は若林区は、次男の沖野小1年朝陽さん(7)と訪れた。「市内でチャレンジショップを開く友人を手伝うので、商売繁盛を祈った」と話した。

境内は夜が更けるにつれ、参拝者らで混雑した。